

第3章 基本理念

「活力 あんしん 鳥取県」～心豊かな充実生活をめざして

県民、NPO、住民団体、企業、各団体等の知恵と力を結集して、地域・県外・国外と「顔が見えるネットワーク」を持ちながら様々な活動を行う活力にあふれる鳥取県。

そして、その活力を活かし、人生のあらゆるステージ（段階）において、豊かな自然・環境の中で、心の豊かさを実感しながら充実した生活を安心して送ることのできる鳥取県。

= 「活力 あんしん 鳥取県」を、県民とともに創ります。

基本理念の実現のために、鳥取県の2030年の姿を次の6つの視点で描きます。

1 ひらく 地域で・県外で・国外で新時代に向かって扉をひらく

- (1) 時代の変化に応じ新たな需要を獲得できる産業が創出（ニューノーマル型ビジネス）
- (2) 県内企業がITやロボット等の先端技術を使いこなし国内外で活躍（デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進）
- (3) 場所や時間にとらわれない働き方が実現（テレワーク、兼業・副業、ワーケーション等）
- (4) 農林水産物のブランド確立と多様な担い手が活躍（スマート農林水産業の推進）
- (5) 国内外の旅行者が増加するとともに、多様な分野の海外交流が進展

2 つなげる 力をつなげ、結集して、持続可能で魅力あふれる地域を創る

- (1) 県民、市町村、企業、NPO等との協働により持続可能な地域が実現
- (2) 移住定住（若者のIJUターン等）や関係人口が増加
- (3) 住民が安全・安心に暮らし続けられる中山間地域が形成
- (4) 魅力があふれ人が集い、にぎわいのある中心市街地が形成
- (5) 高速道路などの高速交通網や物流拠点が充実（高速道路のミッシングリンクの解消）
- (6) 超高速情報通信網が充実し、ICTの高度活用により産業や生活の質が向上

3 守る 豊かな恵み・生活を守り、次代につなぐ

- (1) 新型コロナウイルスなどの新たな感染症に対応する体制が確立
- (2) 循環型社会・低炭素社会が確立（プラスチックごみ・食品ロスの削減、温室効果ガスの削減等）
- (3) 人と自然が共生し、美しく豊かな自然が継承（生物多様性の維持）
- (4) 先端技術を活用した医療、地域支援、健康づくりの実践で健康寿命が延伸（遠隔医療、フレイル予防、認知症予防等）
- (5) 地域ぐるみの活動とIoT等の活用や生活空間の環境整備により、日常生活の安全が確保
- (6) 災害に強い県土の形成が進み、防災・危機管理対策が向上

4 楽しむ いきいきと楽しみながら充実した生活を送る

- (1) 豊かな自然、食、文化、歴史、芸術を知り楽しむことができる鳥取
- (2) ワーク・ライフ・バランスが充実し、活力ある生活が実現
- (3) いつでもどこでも誰でもスポーツを楽しめる環境が実現
- (4) 誰もが学び、主体的にキャリアアップを図る機会が充実

5 支え合う お互いを認め、尊重して、支え合う

- (1) 多様性を互いに認め、支え合う共生社会（多文化共生、マイノリティ）
- (2) 家庭・地域・職場で心豊かに暮らせる男女共同参画社会
- (3) 障がい者・高齢者がいきいきと暮らす地域社会
- (4) DVや児童虐待など支援の必要な方が生活しやすい環境が整備

6 育む 次代に向けて、躍動する「ひと」を育む

- (1) 地域や職場との連携などにより、安心して子育てができる環境が進展
- (2) 高等教育機関等が県内産業界等と連携し、地域が求める人材を輩出
- (3) 子どもたちの地域への愛着と誇りが醸成（ふるさとキャリア教育の推進）
- (4) 社会の変化に対応できる力を身につけた人材を育成（主体的・対話的で深い学びの推進、ICT活用教育）

第4章 2030年の鳥取県の姿

1 ひらく 地域で・県外で・国外で新時代に向かって扉をひらく

(1) 時代の変化に応じた新たな需要を獲得できる産業が創出

関連するSDGs



- ・ポストコロナ時代に対応した事業展開として、非対面型ビジネスの取組や感染症対策商品・サービスの開発などニューノーマル型ビジネスの取組が進み、新たな需要を獲得している。
- ・国内外の生活スタイルや価値観の変化をチャンスととらえた、ベンチャー企業や新規創業者が県内に多数誕生し、活躍している。
- ・立地環境にとらわれることなく、県内外・国内外の企業等との連携やコラボレーションが活発になっている。
- ・ICTの活用やグローバル化の進展に伴い、多くの企業が海外需要を獲得している。
- ・ものづくり分野をはじめ、食品産業、観光産業、IT産業、バイオ・ヘルスケア産業など、幅広い産業が成長した多軸型産業構造が構築されている。
- ・県内でMaasや自動運転、遠隔医療・遠隔診断等の先進的な新たなサービスの開発が進み提供されている。
- ・本県の安全・安心な環境が選ばれ、本社機能や研究拠点を県内に移転する大都市圏の企業が増加している。また、部品供給のリスク分散を図るため、県内への立地が進んでいる。
- ・関係人口のつながりをベースとして、都市部から県内に拠点を分散させる企業が次々に生まれている。

(2) 県内企業がITやロボット等の先端技術を使いこなし国内外で活躍

関連するSDGs



- ・分野や規模の大小に関わらず、幅広くAI・IoT等の先端技術の活用をはじめとしたデジタルトランスフォーメーション(DX)が進み、製品・サービスの付加価値が大きく向上している。
- ・製造業におけるスマート工場化をはじめ、自動化や遠隔作業などの技術が浸透し、様々な産業分野で生産性が大幅に向上している。
- ・荷主企業及び運送事業者の双方が、AI・IoT等の先端技術等を活用した物流改善に取り組むことにより、物流の効率化が進んでいる。
- ・先端技術を積極的に使いこなしている県内の中小企業の競争力が飛躍的に向上している。
- ・産学官の連携により、新たな産業の需要に対応できる、高度かつ多能的な人材が育成されている。

(3) 場所や時間にとらわれない働き方が実現

関連するSDGs



- ・テレワークが県内に浸透し、場所や時間にとらわれない多様な働き方が実現している。
- ・企業の人材確保が大きく変化し、県内企業が都市部の人材を採用することや、反対に県内に在住しながら都市部の企業で働くことが広く普及している。
- ・サテライトオフィスやワーケーションなど多様な働き方ができるオフィス施設が県内各地に設置、開設され、県内外の様々な人が活用している。
- ・オンラインを活用した職業訓練などにより、希望の職へ就業できるようになっている。
- ・一人ひとりの希望や事情に応じてフルタイム勤務にとらわれない働き方（短時間勤務、フレックス）や、副業・兼業など、個人の持っている能力・技術を最大限に発揮できる働き方ができるようになっている。

(4) 農林水産物のブランド確立と多様な担い手が活躍

関連するSDGs



- ・清浄な水と空気をはじめとした豊かな自然と先人の努力に育まれた梨やスイカ、和牛、カニさらには米、らっきょう、イチゴなど、世界に通じるブランド力を持った農林水産物が次々と生まれ、農林水産業の所得の向上につながっている。
- ・県オリジナル新品種などの安全・安心で付加価値の高い農林水産物が県内外はもとより、世界に向けて発信され、輸出が拡大している。
- ・優れた種雄牛の遺伝資源を保護し、和牛ブランドの産地として世界的に有名になっている。
- ・無人で作業可能なロボットトラクタ・林業機械、ドローンによる農薬等散布・苗木運搬・森林情報解析など、農林水産業でAI・IoTの活用が進み、生産性が向上している。
- ・実践的な教育の充実やIJUターンの促進などにより、新規就業や他産業からの参入が進み、多様な担い手が数多くいきいきと農林水産業に従事している。
- ・耐久性能の向上したCLTや防火性能の向上したLVLなど付加価値の高い木材製品が生産され、国内外に販路が拡大している。
- ・スマート林業の導入等により、林業の生産性・収益性が向上している。
- ・つくり育てる漁業と資源管理の推進により、限りある水産資源の安定供給が実現するとともに、水産物の高付加価値化や漁業所得の向上につながっている。

(5) 国内外の旅行者が増加するとともに、多様な分野の海外交流が進展

関連するSDGs



- ・本県が「豊かな自然」や「美味しい食」、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を講じた「安全・安心な観光地」として注目され、多くの観光客が訪れている。
- ・多言語表記や翻訳機器整備などの多言語対応やユニバーサルデザインが普及し、年齢や障がいの有無、国籍に関わらず誰もがストレスフリーに観光を満喫している。
- ・地域資源を活かした観光コンテンツが充実し、AIを活用した観光ルート提案やSNSを掛け合わせた情報発信により、体験型や長期滞在型観光の適地として、国内外からの観光客が増加している。
- ・Ma a Sなどの交通サービスやキャッシュレス決済の普及等、先端技術を活用した快適な受入れ環境が整備されている。
- ・ICT活用やインバウンド対応のできる観光人材が育成されている。
- ・VR・AR（拡張現実）を利用した観光の疑似体験等が提供されており、広く世界に本県の認知度が向上している。
- ・主要幹線道路や鉄道の整備、空港・港湾の機能向上、国際定期便、チャーター便やクルーズ船の増加等により、国内外との交流が促進されている。
- ・北東アジア地域を中心に、文化、スポーツ、経済、観光などの多様な分野で幅広い交流が進展している。

2 つなげる 力をつなげ、結集して、持続可能で魅力あふれる地域を創る

(1) 県民、市町村、企業、NPO等との協働により持続可能な地域が実現

関連するSDGs



- ・地域づくりを自発的に行う意識や環境が定着し、県民一人ひとりやNPO、住民団体が積極的に地域活動に関与している。
- ・県民やNPO等からの政策提案や協定等に基づき、行政と県民、NPO等が協働して施策を実施している。
- ・SDGsの理念が県民に広く浸透し、県民の参加と協働による環境保全・社会的課題解決・経済活動の好循環などの持続可能な仕組みが確立されている。
- ・企業が県民、行政等と連携し、公益活動・社会貢献活動、ESG経営（※）を展開している。

※ESG経営：環境（Environment）、社会（Social）、企業統治（Governance）の各々の観点を持ったうえで配慮が必要だという考え方もとづく企業経営。ESG経営を評価して行われる投資をESG投資という。

(2) 移住定住や関係人口が増加

関連するSDGs



- ・都市部から理想の子育てやライフスタイルを実現する場としてI J Uターンが増加している。
- ・先輩移住者や地域団体、行政が連携し、新たな移住者の暮らしをサポートする環境が広がり、移住者が暮らしやすい地域になっている。
- ・管理されていない空き家や農地の所有者と、利活用を希望する移住者とのマッチングにより、中山間地域への移住が増加している。
- ・事業者と求職者のマッチングの促進により、進学等で県外に出た多くの若者がUターンしている。
- ・就職のために県内大学等の卒業生が県内に定着したり、Iターンする若者が増加している。
- ・豊かな自然や地域の特色を活かした関係人口受入の取組が各地域で展開され、都市部の人材の副業・兼業、二地域居住やワーケーションが広まり、多様な関係人口の関わりによる地域活性化につながっている。

(3) 住民が安全・安心に暮らし続けられる中山間地域が形成

関連するSDGs



- ・住民による共助（支え愛）や事業者など多様な主体が関わり、地域コミュニティが維持され、高齢者等の見守りの取組など誰もが安心して暮らせる仕組みが整えられている。
- ・AI・IoT等を使った買物支援や見守りなど、中山間地域での日常生活の快適性がさらに向上している。
- ・Ma a Sや自動運転自動車、交通事業者と地域住民の共助交通の役割分担などにより、地域の実情にあった生活交通が確保され、車を運転できない高齢者等であっても、自家用車に頼らず暮らせる快適な移動サービスが確保できている。
- ・管理されていない空き家や農地等に係る所有者の意向を把握し、適切に措置される取組が進み、農地の荒廃や家屋の倒壊が防止されている。
- ・廃校等を利用し、地元の生産物や歴史、景観などの地域資源を活用したスモールビジネスが創出されている。
- ・中山間地域の歴史と風土の中で育まれた伝統行事、伝統文化等が、地域の誇りとして維持・継承されている。

(4) 魅力があふれ人が集い、にぎわいのある中心市街地が形成

関連するSDGs



- ・歩いて楽しく心地よい緑あふれる中心市街地が形成され、地域内外の多様な人々が行き交い、集い、憩い、豊かな感性を育む場となっている。
- ・空きビルや空き店舗等の新たな利用価値が創出され、魅力的なりノーションにより中心市街地の賑わいの核として利活用が進んでいる。
- ・医療・福祉・商業などの機能が集約されたコンパクトなまちづくりが進み、生活上の利便性が向上している。
- ・移動手段としてシェアサイクルやカーシェア等が一層普及している。
- ・近隣住民による共助（支え愛）等により、高齢者等の見守りの取組など、安心して暮らせる仕組みが整えられている。

(5) 高速道路などの高速交通網や物流拠点が充実

関連するSDGs



- ・山陰道の県内区間が全線開通するとともに、山陰近畿自動車道（岩美道路）が開通し、交流が一層活発になり、経済圏域が拡大している。
- ・鉄道の整備、空港の機能向上、国際定期便やチャーター便の増加等により、国内外につながる陸・海・空のネットワークが強化されている。
- ・境港は、新たな岸壁が整備されるなど、船舶の大型化や取扱貨物量の増大に対して機能強化が図られている。鳥取港は、メイン航路の変更により、航路埋塞等の課題が解決され機能強化が図られている。

(6) 超高速情報通信網が充実し、ICTの高度活用により産業や生活の質が向上

関連するSDGs



- ・光ファイバ網や第5世代移動通信システム（5G）などの超高速情報通信網の整備により、AI・IoTなど、ICTの高度な活用のための基盤が構築され、行政手続きのオンライン化や、オンライン会議・授業や在宅ワークが普遍化するとともに、車の自動運転やドローンによる物流、作業が行われるなど、社会全体でデジタル化や技術革新が進み、産業や生活の質が向上している。

3 守る 豊かな恵み・生活を守り、次代につなぐ

(1) 新型コロナウイルスなどの新たな感染症に対応する体制が確立

関連するSDGs



- ・新たな感染症の拡大を可能な限り抑制し、県民の生命及び健康を保護するとともに、県民生活及び県民経済に及ぼす影響が最小となるような医療・保健体制が構築されている。
- ・感染症の発生期には、県民や県内企業が感染症の拡大防止に取り組んでいる。

(2) 循環型社会・低炭素社会が確立

関連するSDGs



- ・4R+Renewable (※) が定着し、つくる側(生産者)・つかう側(消費者)がそれぞれ責任を持つことで、海洋プラスチックごみを含むプラスチックごみ・食品ロス等廃棄物の発生が抑制され、資源の循環が図られている。
- ・2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けて、太陽光発電などの「創エネ」や蓄電池等を活用した「蓄エネ」、節電やエネルギーの効率化等による「省エネ」の相乗効果により低炭素社会化が進んでいる。
- ・カーボン・オフセット等を活用した間伐等により森林が健全化することで、地球温暖化防止などの機能が発揮されている。
- ・防災施設の整備や機能強化、農林水産業における技術の確立・普及、新たなビジネス機会の創出等による産業活性化など、気候変動に関する社会的・経済的な損失を最小限に抑えながら、地域における持続可能な発展が図られている。
- ・SDGsの理念が県民に広く浸透し、県民の参加と協働による環境保全・社会的課題解決・経済活動の好循環などの持続可能な仕組みが展開されている。(再掲)

※4R+Renewable・・・リフューズ(不要なものを断る)、リデュース(排出抑制)、リユース(再利用)・リサイクル(再生利用)、リニューアブル(再生可能資源への代替)を指す。

(3) 人と自然が共生し、美しく豊かな自然が継承

関連するSDGs



- ・生物多様性の重要性が広く認識され、県民と協働した野生動植物の保護活動や外来種の駆除、工事等での生物多様性への配慮がより促進されるなど、豊かな自然と希少動植物等が保全されている。
- ・三大湖沼（湖山池、東郷池、中海）や河川等の良好な水質が保たれ、地下水の保全と利用が確立されている。
- ・光害が抑制され、全国随一の美しい星空環境が創造されている。
- ・「とっとり共生の森」など企業と連携した森林づくりが定着しているとともに、地域の子どもの活動も取り入れた形に発展している。
- ・自然公園や山陰海岸ユネスコ世界ジオパークにおける自然観察や登山、シーカヤックをはじめとするアクティビティ（自然体験活動）など、豊かな自然を満喫できるエコツーリズム（※）の拠点となっている。

※エコツーリズム・・・地域ぐるみで自然環境や歴史文化など地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組み（環境省HPより）

(4) 先端技術を活用した医療、地域支援、健康づくりの実践で健康寿命が延伸

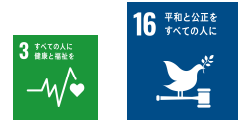
関連するSDGs



- ・医療人材の確保や救急医療体制の構築により、地域の医療体制が整い、県民が安心して地域で暮らしている。
- ・県民一人ひとりの健康づくりと先端技術を活用した健康管理、最適な地域での支援により健康寿命が全国トップレベルに延伸している。
- ・医療・ヘルスケア分野での技術革新が進み、遠隔医療・遠隔診断等の先端技術を活用した地域の医療体制の整備や安全・安心かつスムーズな医療・福祉サービスを利用することができている。
- ・家庭におけるICTが普及し、一人暮らしや、外出困難者であっても必要な医療サービスを受けてきている。
- ・健康情報のセルフコーディングの活用などによる疾病予防が進んでいるほか、遠隔医療が広く普及している。
- ・一人ひとりの健康意識が一層高まり、生活習慣病対策、フレイル予防、介護予防・認知症予防の取組が地域ぐるみで実践されている。
- ・がんによる死亡率が減少するとともに、がんと診断されても心豊かに自分らしく生きることができ、環境が整っている。

(5) 地域ぐるみの活動とIoT等の活用や生活空間の環境整備により、日常生活の安全が確保

関連するSDGs



- ・食品の衛生管理が一層向上し、誰もが安心して食を楽しんでいる。
- ・県民と行政が連携、協力した地域の安全確保により、犯罪被害が防止されている。
- ・通学路の安全対策や歩道のバリアフリー化などが進み、安全・安心な歩行空間が確保されている。
- ・自動運転技術の普及などにより交通事故が減少している。
- ・鳥取ならではの絆社会を活かし、中高年を含めたひきこもりが未然に防止されるとともに、相談体制の充実や先端技術を活用した社会参画の仕組みが実現している。
- ・消費生活相談環境が充実するとともに、高齢者や障がい者等の消費者トラブルを防止するための地域見守りネットワークが構築され、消費者被害が減少している。

(6) 災害に強い県土の形成が進み、防災・危機管理対策が向上

関連するSDGs

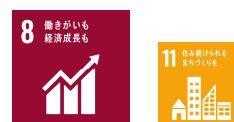


- ・道路・河川・砂防・治山・港湾等のインフラ整備と耐震化が進展し、災害に負けない強靱な県土が形成されている。
- ・AIや、IoTなどの新技術を活用して、計画的なインフラ維持管理が実現している。
- ・リアルタイムの情報発信などにより避難の判断・指示が適時に行われ、水害や土砂災害からの逃げ遅れによる死者がゼロになっている。
- ・要支援者に配慮された避難所環境の整備が進んでいる。
- ・地域の様々な立場の人が平時から協働・連携することで、災害時に誰一人取り残されることのない安全・安心な地域社会が実現している。

4 楽しむ いきいきと楽しみながら充実した生活を送る

(1) 豊かな自然、食、文化、歴史、芸術を知り楽しむことができる鳥取

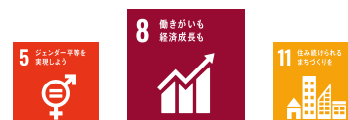
関連するSDGs



- ・本県の豊かな自然、食、郷土芸能や伝統行事、民芸などの地域文化が大切に守られ受け継がれ、県民誰もが楽しむ機会が充実している。
- ・青谷上寺地遺跡公園（仮称）がオープンし、おきばんだ史跡公園とともに弥生時代の重要な文化財が観光資源として活用されている。
- ・県立美術館や、鳥取県を拠点に活動するアーティストとの交流等を通じて、幼少期から豊かな創造性が育まれ、誰もが文化・芸術に親しんでいる。
- ・ICTを活用した多様な形で、県民誰もが文化・芸術に係る活動や体験及び鑑賞ができるようになっている。

(2) ワーク・ライフ・バランスが充実し、活力ある生活が実現

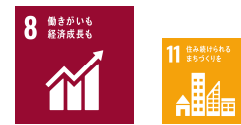
関連するSDGs



- ・仕事と家庭の両立を応援する職場環境が推進され、子育てや介護をしている人をはじめ、誰もがライフステージにあわせて働くことができ、一人ひとりのワーク・ライフ・バランスが充実している。
- ・仕事と家庭の調和が図られ、地域活動やスポーツ、趣味を楽しむなど、誰もが自分らしい時間の使い方ができ、生きがいや幸せを実感することにつながっている。

(3) いつでもどこでも誰でもスポーツを楽しめる環境が実現

関連するSDGs



- ・ 全国大会・世界大会やキャンプ・合宿が県内でコンスタントに開催され、スポーツに親しむ機会が増えている。
- ・ 誰もがそれぞれの年齢や体力、関心や目的に応じて、いつでも、どこでも安全にスポーツ活動を楽しむことができる環境が実現している。
- ・ アスリートを育成する環境が充実し、日本や世界のトップを目指す子どもたちが出てきている。
- ・ 世代を超えて多くの県民がスポーツの楽しさを理解し、実際に身体を動かすことで健康づくりにつながっている。
- ・ 5GやAR・VRなど先端技術を活用したeスポーツ（エレクトロニック・スポーツ）の大会が開催され、地域活性化に繋がっている。

(4) 誰もが学び、主体的にキャリアアップを図る機会が充実

関連するSDGs



- ・ 大人がICTを学習する機会が充実するなど、誰もが生涯にわたって学び直しができることで、生活の充実や地域の活性化につながっている。
- ・ 大学と連携したリカレント教育が充実し、主体的にキャリアアップを図る人が増えている。
- ・ 図書館、美術館、博物館等の社会教育施設を活用して、県民が学びの活動を続け、学んだことを活かしてボランティア活動や学校での子どもたちとの交流など、地域で活躍できる機会が充実している。

5 支え合う お互いを認め、尊重して、支え合う

(1) 多様性を互いに認め、支え合う共生社会

関連するSDGs



- ・性別、年齢、国籍、障がいの有無、そのほか身体的、社会的状況や文化、習慣の違いに関わらず、互いに認めあい、また支えあう社会づくりが進み、誰もが安心して自由に自分らしく生活している。
- ・障がいのある方や外国人の方などが、会話手段や言語に関わらずストレスなく互いに意思疎通を図ることができ、地域での絆を深めている。
- ・ユニバーサルデザインが広く普及し、誰もが暮らしやすい環境が整っている。

(2) 家庭・地域・職場で心豊かに暮らせる男女共同参画社会

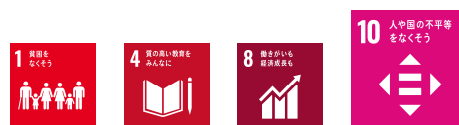
関連するSDGs



- ・仕事と家庭の両立を応援する職場環境が推進され、子育てや介護をしている人をはじめ、誰もがライフステージにあわせて働くことができ、一人ひとりのワーク・ライフ・バランスが充実している。(再掲)
- ・社会のあらゆる分野で、性別にとらわれることなく、一人ひとりが個人の能力を発揮し、活躍する機会が確保されている。
- ・企業などでの女性管理職が増加するなど、女性の活躍が広がっている。
- ・男性の家事・育児・介護への参画が当たり前となり、家庭や地域においてみんなで協力し、互いに支え合っている。

(3) 障がい者・高齢者がいきいきと暮らす地域社会

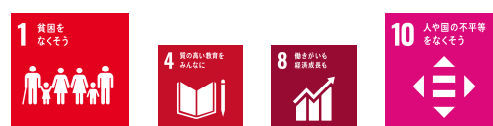
関連するSDGs



- ・障がいのある方がその特性に応じて能力を発揮できるよう、福祉的就労、一般就労ともに様々な形の就労環境が整い、自らの意思にもとづきいきいきと働くことができている。
- ・障がいのある方が質の高い福祉サービスを利用しながら、住み慣れた地域の中で安心して、その能力と適性に応じて自立した日常生活や社会生活を営んでいる。
- ・高齢者が、フレイル予防、介護予防・認知症予防を実践し、様々な福祉サービスを利用しながら、住み慣れた地域の中で元気に暮らしている。

(4) DVや児童虐待など支援の必要な方が生活しやすい環境が整備

関連するSDGs



- ・鳥取ならではの絆社会を活かし、地域の見守りなどによりDVや児童虐待が未然に防止されている。
- ・DVや児童虐待の被害にあった方が相談できる体制が充実し、より生活しやすい環境が整っている。
- ・身近な暮らしの場で、ひとり親家庭や生活困窮者の見守りや相談支援体制が充実し、安心して日常生活を営んでいる。

6 育む 次代に向けて、躍動する「ひと」を育む

(1) 地域や職場との連携などにより、安心して子育てできる環境が進展

関連するSDGs



- ・家庭・職場・地域の連携により、男性も女性も働きながら子育てできる環境が整っている。
- ・子育てに係る経済的な負担の軽減により、誰もが安心して子育てできる社会が実現している。
- ・放課後児童クラブや年度中途の保育所等の待機児童が解消されるなど、子育て支援サービスがさらに充実している。
- ・保育施設等の利用児童数の見込みに応じた保育・幼児教育を行う人材が確保できている。
- ・健康な体づくりや豊かな人間性が醸成できる体制が充実しており、「遊びきる子ども」を育成できる環境が整っている。
- ・幼稚園等の運営を支援するとともに、発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育が充実し、子どもたちが質の高い教育を受け、健やかに成長している。
- ・保護者同士のつながりが形成され、保護者への学習機会の提供、家庭教育支援が充実している。
- ・ひとり親家庭や多子世帯への支援が充実している。
- ・生活困窮世帯やひとり親家庭の子どもたちを含め、夜間や休日に地域の大人や友達と食事や学習ができる子どもの居場所が身近な地域に整っている。
- ・出会いの機会の充実や地域での支援により、自らが望む結婚ができる環境が整っている。

(2) 高等教育機関等が県内産業界等と連携し、地域が求める人材を輩出

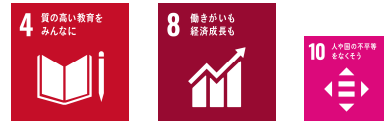
関連するSDGs



- ・大学や職業能力総合大学校・ポリテクセンター鳥取等との連携・支援のもとに、成長分野について必要な知識や技能を身に付けた県内企業の人材が輩出されている。
- ・地域を題材とした体験活動や地域課題解決に向けた探究的な学習の充実により、社会を力強く生き抜く力が育成され、地域が求める人材が育成されている。
- ・地域の特色を活かした魅力的な高等学校・高等教育機関づくりにより、県内外から多くの学生が集まっている。
- ・ICTを使った身近な方法で、本県の学生が県内企業の情報を知り、県内企業に就職する者が増えている。

(3) 子どもたちの地域への愛着と誇りが醸成

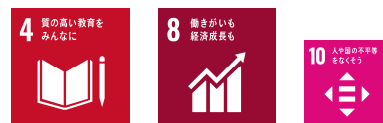
関連するSDGs



- ・子どもたちが鳥取県の豊かな自然や文化、地域で活躍している人や先人の生き方等を通して鳥取県に愛着と誇りを持ち、ふるさと鳥取をさらに継承・発展させようとする意欲や態度が育成されている。
- ・ふるさとキャリア教育により、子どもたちの自立や自分らしい生き方が実現するとともに、将来にわたり様々な場面で鳥取を支えていくことができる人材が育っている。
- ・県民全体で若者のUターンや地元定着に取り組む機運が盛り上がっている。

(4) 社会の変化に対応できる力を身につけた人材を育成

関連するSDGs



- ・「主体的・対話的で深い学び」を推進することにより、子どもたちの学ぶ意欲が高まり、学力が定着するとともに、思考力、判断力、表現力等が養われ、他者と協働して課題解決することができる力が育成されている。
- ・学校へのICT普及（GIGAスクール）やオンライン学習の充実など、AI等の技術革新に対応したICT活用教育の実践などにより、変化の激しい社会を生き抜く力を身に付けた子どもたちが育っている。
- ・キャリア教育やグローバル人材育成等により、社会に貢献する資質・能力を身に付け、世界で活躍できる若者たちが育っている。
- ・ESD教育（※）を推進し、若者たちが持続可能な発展を目指して様々な領域で地域社会に貢献している。
- ・特別な支援を必要とする子どもたちが、就学前から就労に至るまでの切れ目のない一人ひとりの教育ニーズに応じた適切な指導と支援を受け、能力と可能性を最大限に伸ばすことができている。

※ESD教育：Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」の意味。